

追加接種を希望される皆さんへ

新型コロナワクチンの接種は強制ではありません。ご本人が希望する場合に限り接種を行うことになります。また、接種を希望しない方に対して接種を強要したり行動制限を求めること、同調圧力をかけること、さらに、差別することなど決してあってはなりません。

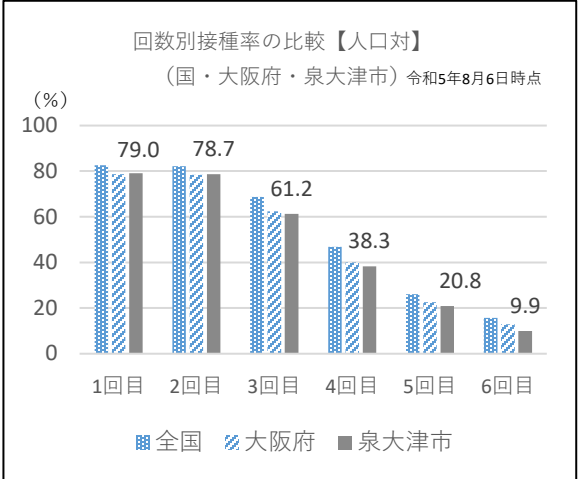
～南出市長からのメッセージ～



令和5年秋接種から使用するオミクロンXBB対応型ワクチンは、厚生労働省の資料によりますと、「中和抗体の上昇により、重症化予防効果が期待されると考えられる」と明記されていますが、マウスを用いた非臨床試験のみの限られた知見です。また、ワクチン接種開始当初から、中長期的な人体への影響は明らかになっておらず、最近では、免疫機能の低下等、追加接種による人体への影響についても心配されています。

また、海外では昨年春以降追加接種はあまり進んでいない状況です。

ウイルスは変異を繰り返しています。現在流行しているウイルスの特徴なども確認し、自ら情報収集し、極めて慎重に判断してください。また、ワクチン接種には副反応などのリスクも生じます。下記副反応のデータを参考に、極めて慎重に判断してください。



1. 国内における新型コロナワクチンの副反応疑いについて

ワクチン別副反応報告件数（医療機関からの報告分）※令和5年7月28日厚生科学審議会資料を基に作成

	副反応疑い 報告数 (報告頻度)	うち	
		重篤 報告数 (報告頻度)	死亡 報告数 (報告頻度)
ファイザー (総数)	30,703 (0.0104%)	7,278 (0.0025%)	1,388 (0.0005%)
小児用 ファイザー	146 (0.0034%)	41 (0.0010%)	3 (0.0001%)
乳幼児用 ファイザー	8 (0.0018%)	3 (0.0007%)	1 (0.0002%)
モデルナ (総数)	5,542 (0.0066%)	1,293 (0.0015%)	178 (0.0002%)
ノババックス	42 (0.0132%)	12 (0.0038%)	1 (0.0003%)

※ファイザー社（推定接種回数）
：小児・乳幼児含む 298,924,259回
※モデルナ社（推定接種回数） 3,462,033回
※接種開始日（ファイザー：R3.2.17 モデルナ：R3.5.22）以降の累計報告件数

※医療機関または製造販売業者から死亡として報告された事例は、ファイザー社製ワクチンで1,843件、小児用ファイザー社製ワクチンで3件、乳幼児用ファイザー社製ワクチンで1件、モデルナ社製ワクチンで225件、武田薬品工業社製ワクチン（ノババックス）で7件となっています。
なお、製造販売業者からの報告によると、副反応疑い報告数（重篤）は、27,361件あります。

※なお、インフルエンザワクチン（令和3年10月から令和4年3月）での医療機関または製造販売業者からの報告によると、5,195回接種で重篤な副反応が50件、死亡事例が7件となっています。

「ウィズコロナからアフターコロナの健康づくりシンポジウム」動画 (R5.7.22開催)

- 世界の接種状況について
- XBB対応型ワクチンについて
- ワクチン等の最新事実について
- 免疫力をあげるからだづくりについて

ワクチンの安全性と副反応については、こちら(市HP)をご覧ください。

2. 接種後、起こることがある症状（下記以外にも副反応の症例だけで1,000種類以上報告されています。）

●アナフィラキシー

- アナフィラキシーとは、じんましんや赤み、かゆみなどの皮膚の症状、くしゃみや咳、息苦しさなどの呼吸器の症状など複数の症状が短時間にあらわれるアレルギー症状のことです。このアナフィラキシーによって、生命を脅かす危険な状態になることをアナフィラキシーショックといいます。
- ショックやアナフィラキシーが接種で認められた場合、接種は受けられません。
- アナフィラキシーの既往や重度のアレルギー症状がある方は、接種前に必ずかかりつけ医にご相談したうえで、接種するかどうか決めてください。

●血管迷走神経反射（けっかんめいそうしんけいはんしゃ）

- ワクチンを受けたことに対する緊張や痛みをきっかけに、血の気が引いて、立ちくらみがしたり、気を失ったりすることがあります。横になって休めば、自然に治ります。たおれてケガをしないよう、背もたれのあるイスですわって休んでください。

●心筋炎（しんきんえん）・心膜炎（しんまくえん）

- ワクチン接種後4日程度の中に、胸の痛み、動悸（どうき）、息切れ、むくみなどの症状がみられた場合は、速やかに医療機関を受診して、ワクチンを受けたことを伝えてください。

●ギラン・バレー症候群（ギランバレーしょうこうぐん）

- 接種後、手足の力が入りにくい、しびれ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。

3. 免疫力をあげるからだづくり

新型コロナウイルス感染症など、感染対策の基本は、自身の免疫力をあげることが重要です。免疫力とはウイルス感染やがんなどの病気を防御してくれる機能です。身を守る一つの方法として、下記を参照に実践し、免疫力アップを目指しましょう。

また、健康を維持するには、体に必要ないもの（食品添加物や農薬など）はできるだけ摂らず、必要な栄養素をしっかり摂取する食生活を心がけましょう。

免疫力アップ



- ①栄養バランスのとれた食事
- ②からだを温める
- ③睡眠をとる
- ④ストレスを減らす
- ⑤腸を整える
- ⑥適度な運動

- ①栄養バランスの良い食事と、からだに不要なものは、摂らないことを意識しましょう。
- ②体温が上がると血流が良くなり免疫力が高まります。
- ③良質な睡眠により、免疫を活性化させるホルモンが分泌されます。
- ④ストレスにより自律神経のバランスが崩れると免疫力が弱まります。
- ⑤免疫細胞の約7割が腸にあり！発酵食品や食物繊維などで腸を整えましょう。
- ⑥激しい運動は逆効果。自分の身体にあった中軽度の運動を心がけましょう。

「健康づくり推進条例制定記念シンポジウム」動画

～未病予防対策先進都市をめざして～(R5.8.6開催)

・未病の成り立ちと食事による予防法

・身体の土台づくりとしての呼吸と足指  



4. 新型コロナワクチンの副反応の相談・健康被害支援金について

▷オンライン相談

新型コロナ感染症の後遺症にお悩みの方やワクチンの副反応などにお悩みの方は西洋医学だけでなく、東洋医学など幅広い知識と専門性を有する医師が個別に対応します。（泉大津市民無料）

▷後遺症改善プログラム

統合医療に造詣の深い医師らが立ち合い、自然療法をはじめヨガや整体などの技術を用いて自己治癒力を高め、症状の緩和改善を目指しますプログラムです。（泉大津市民無料）

▷ワクチン接種後の体調不良や長引く副反応に関する相談・診療窓口

相談：泉大津市 健康づくり課（☎0725-33-8181 平日8:45～17:15）

診療：市内6医療機関が対応しています（保険診療。かかりつけ医療機関がある方は、まずは主治医にご相談ください。）

「相談窓口・関連リンク」

▷新型コロナワクチン健康被害支援金

新型コロナワクチン接種後に副反応（副反応疑いを含む）などで健康被害を生じ、国の予防接種後健康被害救済制度の申請をされる方を対象に、申請までにかかった医療費等の費用の一部を市独自の「支援金」として支給します。

お問い合わせ先：泉大津市 健康づくり課（保健センター）（☎0725-33-8181 平日8:45～17:15）